

2022年5月10日



2022年3月期 決算説明資料

(2021年4月～2022年3月)

komatsumateRe

小松マテーレ株式会社

1) 2022年3月期 決算の概要

2) 2023年3月期 業績見通し

(単位：百万円)

項目	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	増 減	
			金額	増減率 (%)
売上高	30,018	31,449	1,431	4.8
営業利益	1,416	1,593	176	12.5
経常利益	1,916	2,154	237	12.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,810	2,184	374	20.7

一株当たり純資産	855.78円	876.38円
一株当たり当期純利益	42.38円	52.26円

期中平均為替 レート	USD	106.10円	112.39円
	EUR	123.76円	130.55円

連結業績のセグメント別内訳

(単位：百万円)

セグメント	売上高				営業利益			
	前期実績※	2022年3月期実績	増減		前期実績	2022年3月期実績	増減	
			金額	率(%)			金額	率(%)
繊維事業計	29,682	30,991	1,308	4.4	1,368	1,562	194	14.1
衣料ファブリック	19,834	21,707	1,873	9.4	873	1,688	815	93.3
資材ファブリック	7,317	7,777	460	6.3				
製品部門	2,531	1,506	△1,025	△40.5	495	△126	△621	△125.4
その他の事業	336	459	123	36.6	49	31	△18	△36.7
合計	30,018	31,449	1,431	4.8	1,416	1,593	176	12.5

<コメント>

●衣料ファブリック

国内外ともにファッション・スポーツ分野は需要が拡大し増加。中東向け民族衣装分野においては今下期より回復基調も今上期の落ち込みがあり減少。

●資材ファブリック

堅調に推移。全セグメントにおいて順調に回復。

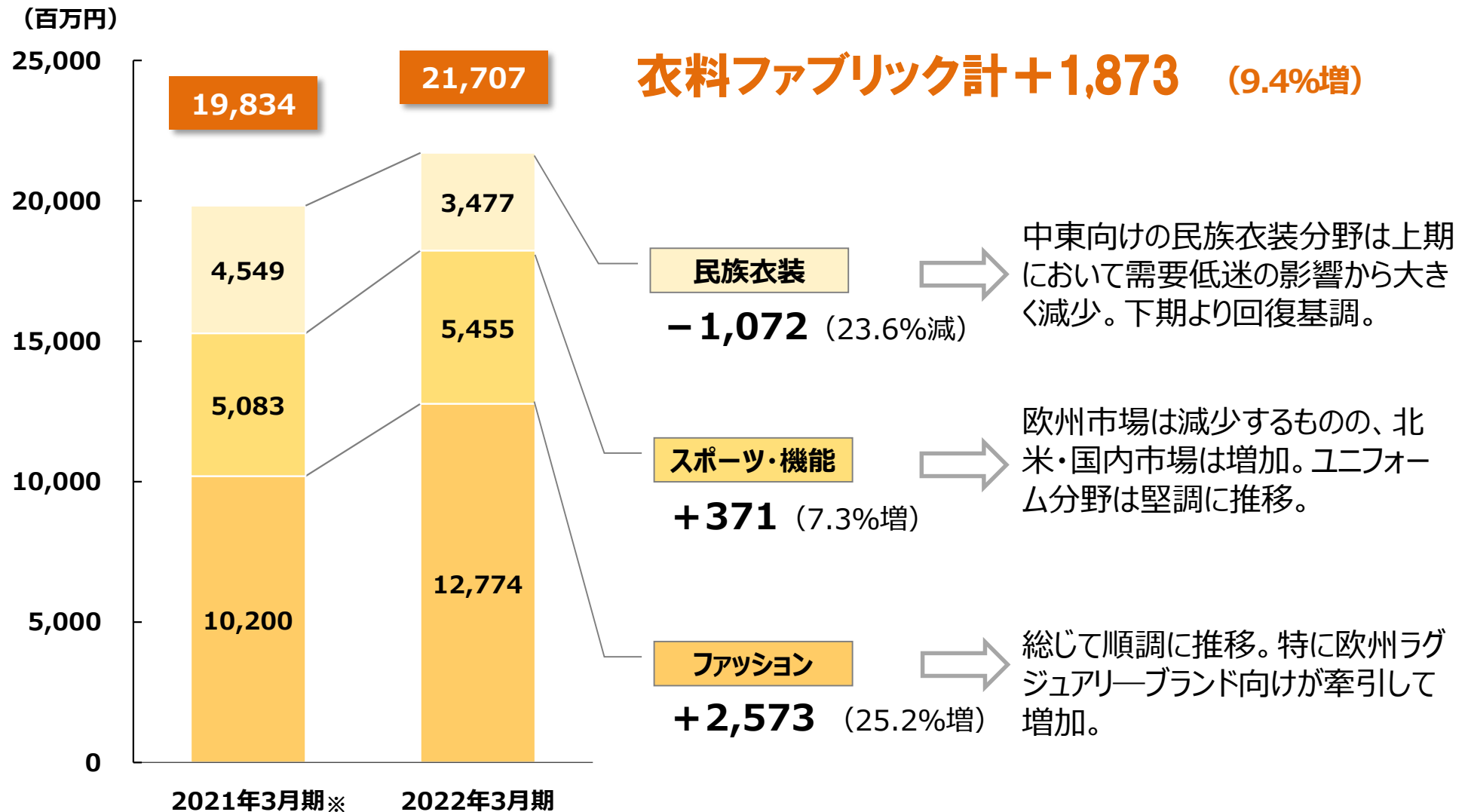
●製品部門

前期の大幅な衛生関連商品の需要拡大に対して、今期においては需要が減少したことから大幅に減少。

※セグメント別の売上高の集計方法を見直したため、前期売上高の金額を変更しております。

繊維事業（衣料ファブリック部門）

（単位：百万円）

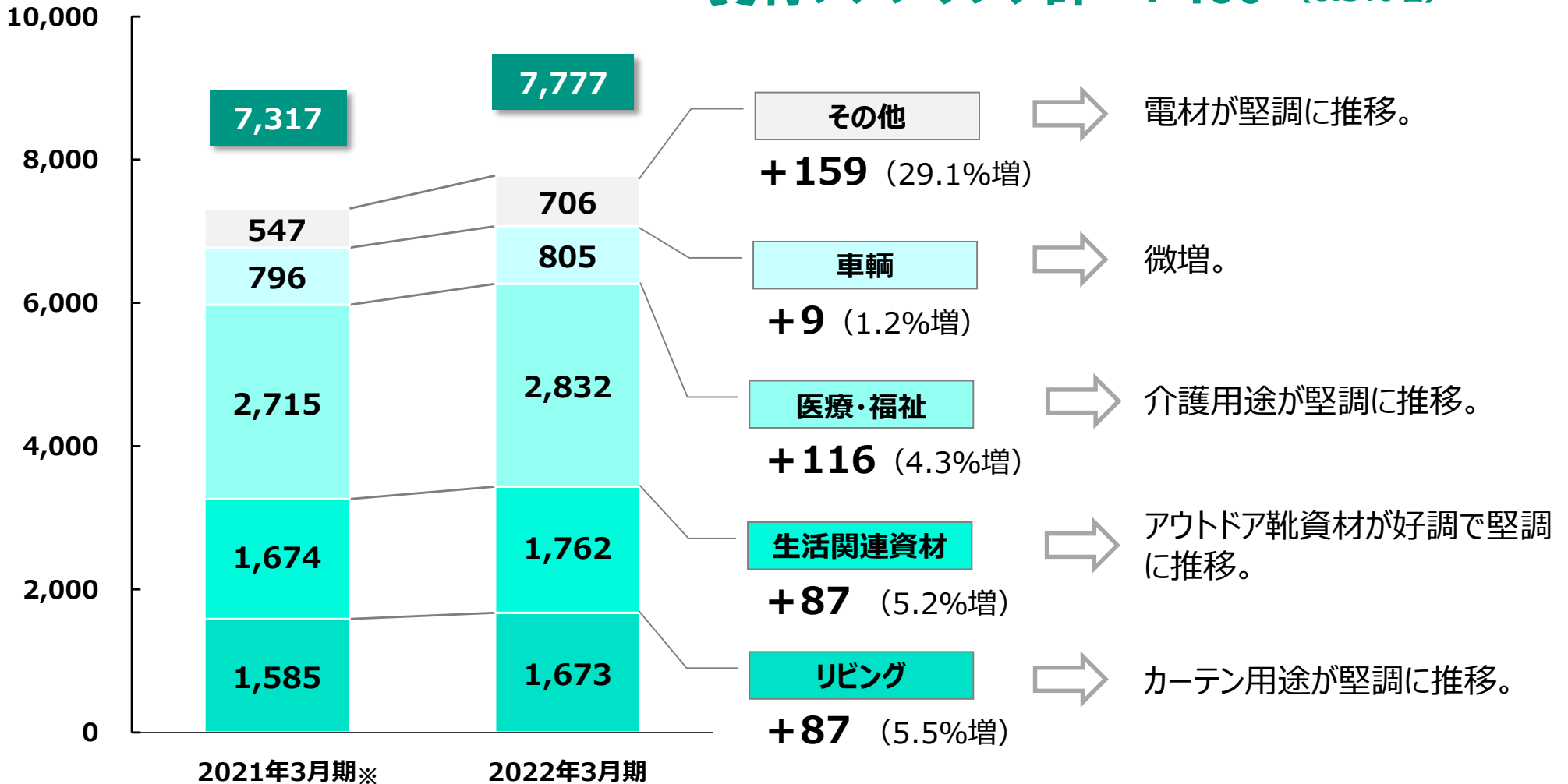


※セグメント別の売上高の集計方法を見直したため、前期売上高の金額を変更しております。

繊維事業（資材ファブリック部門）

資材ファブリック計 +460 (6.3%増)

(百万円)

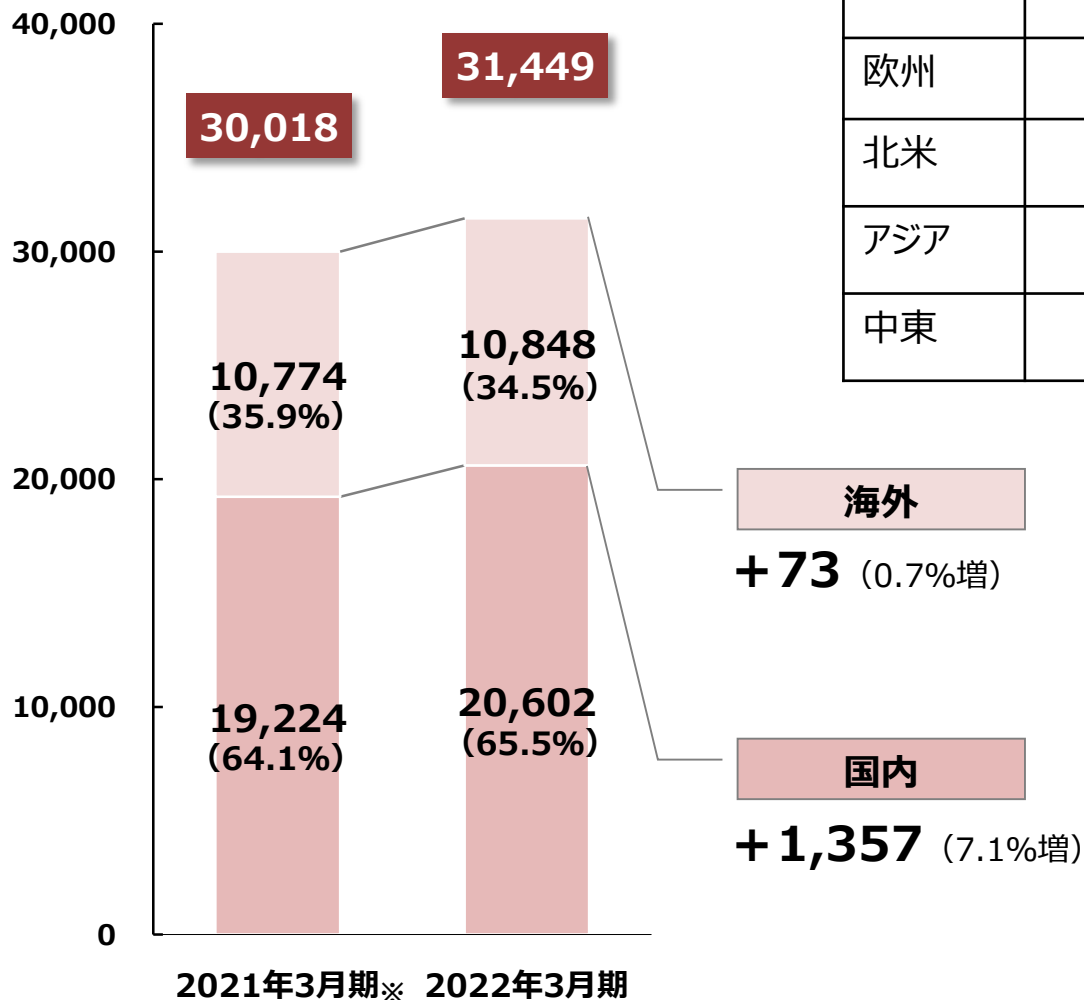


※セグメント別の売上高の集計方法を見直したため、前期売上高の金額を変更しております。

市場別売上高（国内・海外）

（単位：百万円）

（百万円）



	2021年 3月期	2022年 3月期	増減額	増減率 (%)
欧州	3,483	3,346	△136	△3.9
北米	1,226	2,509	1,282	104.5
アジア	1,636	1,625	△10	△0.7
中東	4,427	3,367	△1,060	△24.0

<コメント>

● 海外市場

<欧州> ラグジュアリーブランド向けは引き続き好調も、スポーツ分野が減少。

<北米> 特にカナダ向けのスポーツ・ファッション分野が大きく増加。

<中東> 民族衣装分野が上期において需要低迷により大きく減少。下期より回復基調。

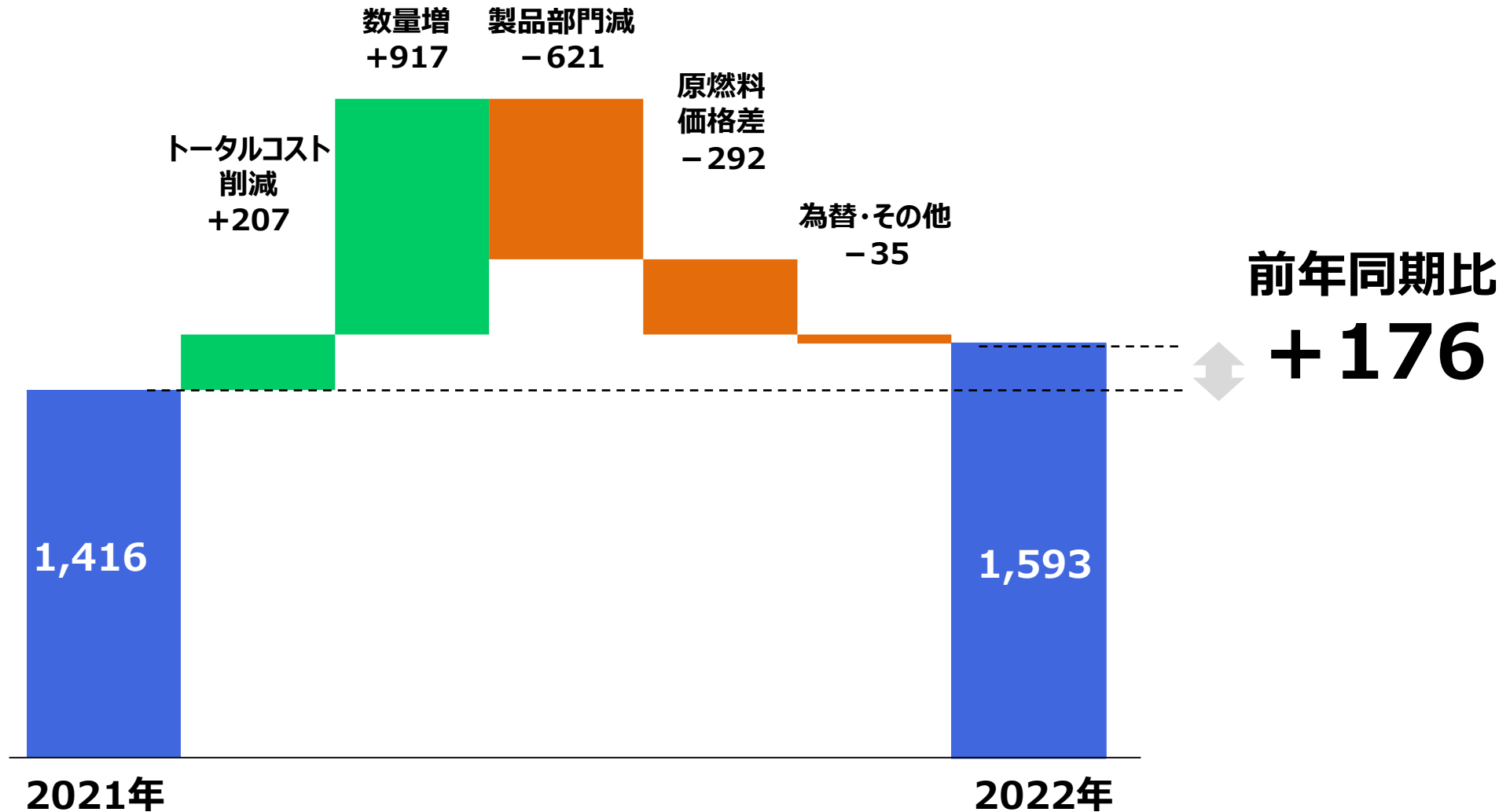
● 国内市場

製品部門が大きく減少するも、ファッション用途が拡大し増加。

※セグメント別の売上高の集計方法を見直したため、前期売上高の金額を変更しております。

営業利益増減分析

(単位：百万円)



- ◆ 当社は、株主に対する利益還元を重要課題のひとつとし、安定的な配当を継続的に行うことを基本方針としております。
- ◆ 配当性向については当期純利益の30～50%を目安としております。

● 今期の期末配当金額は、1株につき10円といたしました。今期中間配当金額と合わせた年間配当金は、前期比2円の増配となる1株当たり18円といたしました。

● 期末配当金の総額 408,685,740円

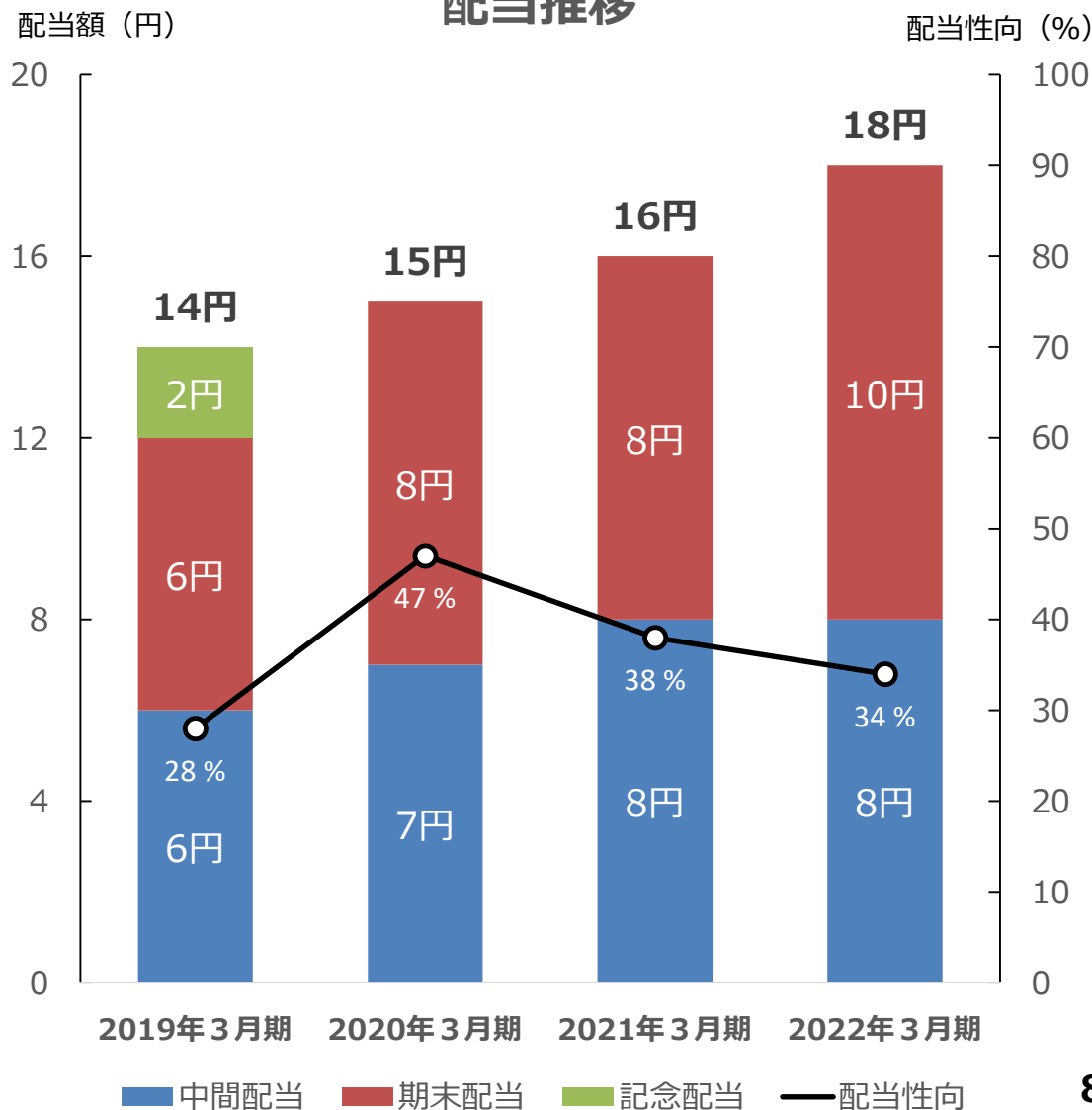
● 剰余金の配当が効力を生ずる日
2022年6月27日(月)

● 当期末の配当性向は34%となっております。

自己株式の取得について

- 取得株式数：215万株(上限)
- 取得総額：30億円(上限)
- 取得期間：2021年11月1日～2022年6月30日

配当推移



1) 2022年3月期 決算の概要

2) 2023年3月期 業績見通し

2023年3月期 業績見通し

(単位：百万円)

項目	2022年3月期 実績	2023年3月期			増減（通期比較）	
		上期予想	下期予想	通期予想	金額	増減率 (%)
売上高	31,449	16,000	18,500	34,500	3,051	9.7
営業利益	1,593	700	1,200	1,900	307	19.2
経常利益	2,154	1,000	1,500	2,500	346	16.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,184	750	1,100	1,850	△334	△15.3

一株当たり当期純利益	52.26円	—
------------	--------	---

期中平均 為替レート	USD	112.39円	110円
	EUR	130.55円	125円

① 持続可能な社会の実現に向けた取り組み

- 「小松マテール・サステナビリティ・ビジョン(KSV)」に掲げられた5つの課題への取り組みを加速させる。地球環境に関わる課題については、社会・顧客のニーズに応えるべく、集中的に取り組む。
- “Komatsu Sustainable Products(KSP)”の売上比率を2022年度の20%に対して、2030年度には全体の50%程度にまでの拡大を目指す。

② 原燃料価格の高騰によるコストアップへの対応

- 省エネや低価格燃料への転換を進めるための設備投資の前倒しを行い、トータルコスト削減を実施する。また、コストアップに対して販売価格へ転嫁するなど、収益確保に向けた取り組みに努める。

③ 新たな価値の創造による積極的な事業拡大と新規分野の開拓

- 営業主導の「戦略的マーケティング」および目的・対象を明確にした「攻略型マーケティング」を強化するため、生産・販売・技術開発が一体となった、全社横断型の開発体制を構築する。
- 産業資材分野について、経編製造のノウハウを持つ吉田産業(株)を子会社化し、当該事業の開拓を加速させる。さらに、当社グループが持つ染色高次加工技術との融合による事業拡大を図る。

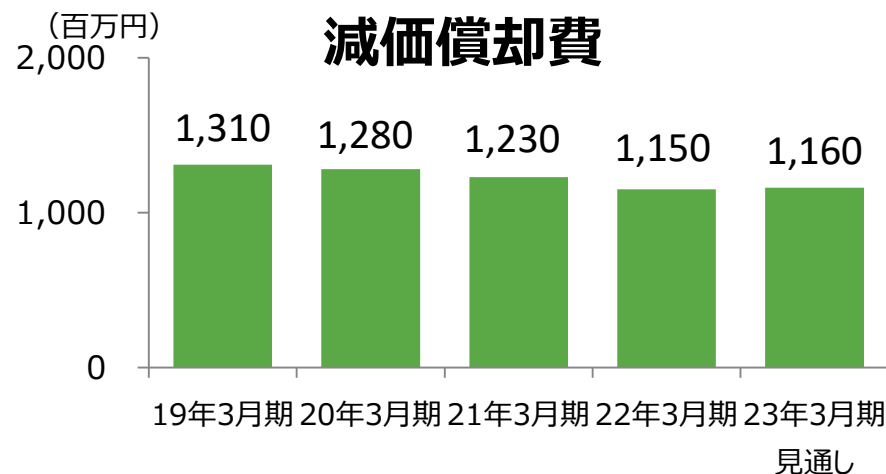
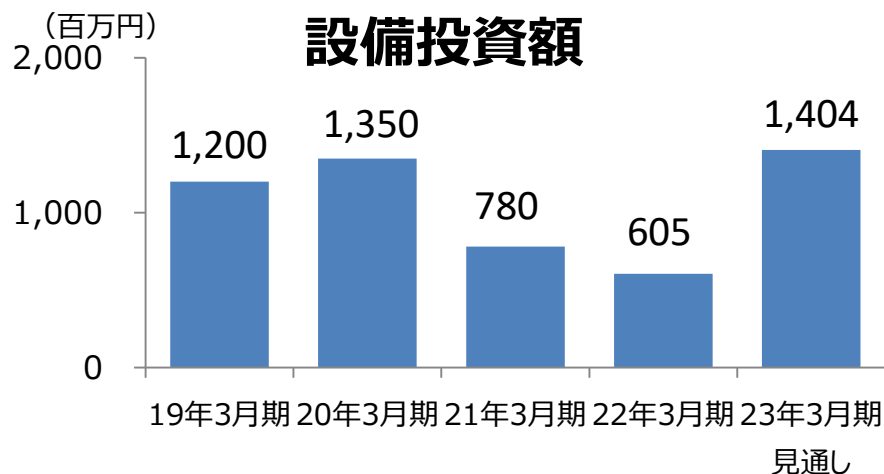
④ 競争力強化のためのデジタル技術の最大活用

- 「デジタルファブリックショールーム」や「ウェビナー」をはじめとする、ハイクオリティな商品・技術の紹介動画を拡充する。また、経営および業務管理などの効率を向上させるため、社内基幹システムの高度化を推進する。

⑤ 生産性向上及びコストダウンに向けた取り組み

- 社内基幹システムの高度化により、すべての事業部門において業務効率の向上と生産納期短縮を進め、生産性と顧客満足度の向上を図る。

設備投資額・減価償却費推移



設備投資額 内訳

(単位：百万円)

項目	2022年3月期 実績	2023年3月期 見通し
製造関連投資	406	838
開発関連投資	18	119
環境関連投資	46	101
システム関連投資	44	247
その他	91	99
合計	605	1,404

本資料中の業績予想、見通しについての記載は、現時点における将来の事業環境・経済状況等の仮定・推測に基づいています。実際の業績は様々な要因の変化により、これと異なる結果となる可能性があることをご理解願います。